

## 6. 保全と活用の仕組みづくりについて

### 1) 活動を支える仕組みと役割

角田山・多宝山の保全活用を良好に進めていくためには、これを担う仕組みが必要であり、次のような役割が求められます。

**役割：「これまでの保全・活用の改善」と「新たな保全・活用の創出」**

#### (これまでの保全・活用の改善)

各団体の活動について情報交換・情報共有を行い、保全活用の場所区分や活用のルールづくりなどを進めます。

#### (新たな保全・活用の創出)

また、例えば地元産のスギ材の新しい利用方法や里山の有効な活用方法などについて検討を進めます。

### 2) 角田山・多宝山を守り活かすための仕組みづくり（イメージ）

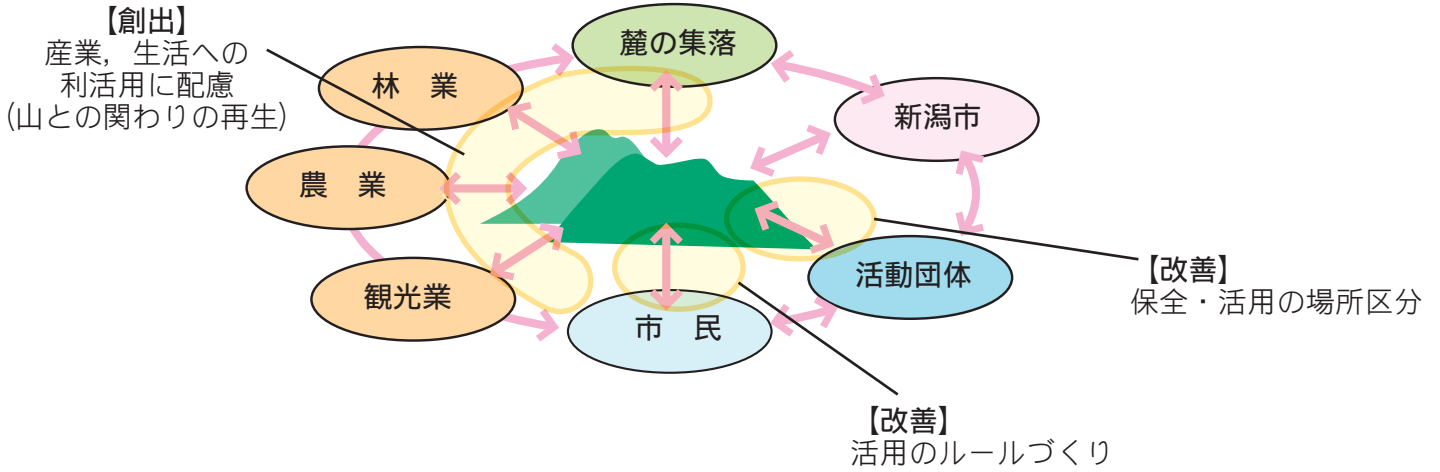
#### 「柔軟な協議の場」の設立

角田山・多宝山を守り活かすための仕組みとして、「角田山・多宝山保全活用協議会（仮称）」を設置し、今後の協議の場を設けます。

この「協議会」では、基本計画に基づき、実施計画を策定し、より具体的な内容を検討していくことで、互いにどのような役割を担い、協力し、活動していくかを検討していきます。

また、メンバーを固定するのではなく、テーマに応じて、参加者が変わる会議としていきます。

「これまでの保全・活用の改善」と「新たな保全・活用の創出」



「協議会」のイメージ

